ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-2	調査位置						北　緯	36 ° 44 ’ 30.2140 ”
発注機関	栃木県日光土木事務所			調査期間	2008-11-27 ～ 2008-12-06			東　経	139 ° 36 ’ 30.3880 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	659.29 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 10.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	7.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1	658.09	1.20	1.20		玉石混り砂礫 (GS-B)	暗褐灰			径300mm程度の砂岩の玉石が混入する砂礫。礫は径50～80mm程度の砂岩主体で、全体に締まり度緩い。		11/04 1.25	1.15	20	23	7	50/30	50							10/26
2	656.39	1.70	2.90		粘板岩 (Sl)	黒			上部やや風化し、軟質化している。片理が発達するために、コアはシルト混り砂礫状を呈する。原位置では、比較的良好な岩盤を全体に砂岩とシルト分に富む砂岩との互層状を呈し、シルト分の多いところは、礫状コア主体で、砂岩部は短柱状コアを呈する。			1.45 / 2.00	50			50/0	>50							10/29
3	654.99	1.40	4.30		砂岩 (Ss)	暗灰			亀裂は開口し、酸化鉄によって赤褐色に汚染されている。			2.00												10/30
4	654.29	0.70	5.00		粘板岩 (Sl)	黒			片理の発達により、コアは細礫～シルト混り砂礫状に採取される。原位置では締まった岩盤を呈していると判断される。															
5	652.29	2.00	7.00		砂岩 (Ss)	暗紫			砂岩とややシルト分に富む砂岩の互層。単層は2～5cm程度。下位に従いシルト分が多くなり、黒みを帯びかつ細かい割れ目が発達する。全体に層理面に平行した亀裂が発達し、短柱～礫状を主体をなす。亀裂は密着状を呈する。															10/31
6																								
7																								11/04